

感動のエジプト・ナイル川クルーズ8日間の旅 2018.12.4.~11.

RSK OB 高谷 昇 NOBORU TAKAYA

2018年最後の海外旅行として12月に、4大文明、発祥の地エジプト旅行に出かけました。エジプトは赤道に近く暑いだろう。T シャツがいるかなと思っていましたが、まったくいりませんでした。岡山、倉敷と同じぐらいでした。風が吹くと肌寒いぐらいでした。観光施設にも、遺跡にも、どこの空港にも自動小銃を持った警察官が配置されていました。観光バスには1人観光ポリスが乗車しました。運転手、観光ポリス、現地ガイド、添乗員、の4人で常に移動しました。カイロ空港にはビザの手配や搭乗手続きの専属世話人がいます。彼が空港内は全て仕切ります。実物のピラミット、スフィンクス、は巨大で圧倒されました。私たちのツアーが帰国した後、ほぼ同じコースで観光していたベトナム人の観光バスが無差別爆弾テロに合い3名死亡4人負傷の大変なことになりました。今回はナイル川のクルーズがメインです。クルーズ船に3泊しましたが、立派なホテルでした。快適でした。クルーズ船で宿泊し、翌日には次の観光地に寄港するといった具合です。第1日目機中泊、第2日目ギザのホテル宿泊、第3日目同じくギザのホテルに宿泊、第4日目からクルーズ船内となりアスワンに1泊、第5日目ルクソールにて停泊、第6日目同じくルクソール停泊、第7日目機中泊、第8日目関西国際空港に到着という行程でした。

旅行記をアップしますので、一緒にエジプト旅行をしましょう。

**\*第1日目**

23:35 関西国際空港発→空路、エミレーツ航空にて経由地のドバイ(アラブ首長国連邦)へ

飛行時間 11時間10分      時差 マイナス5時間

• • • 機中泊 • • •

**\*第2日目**

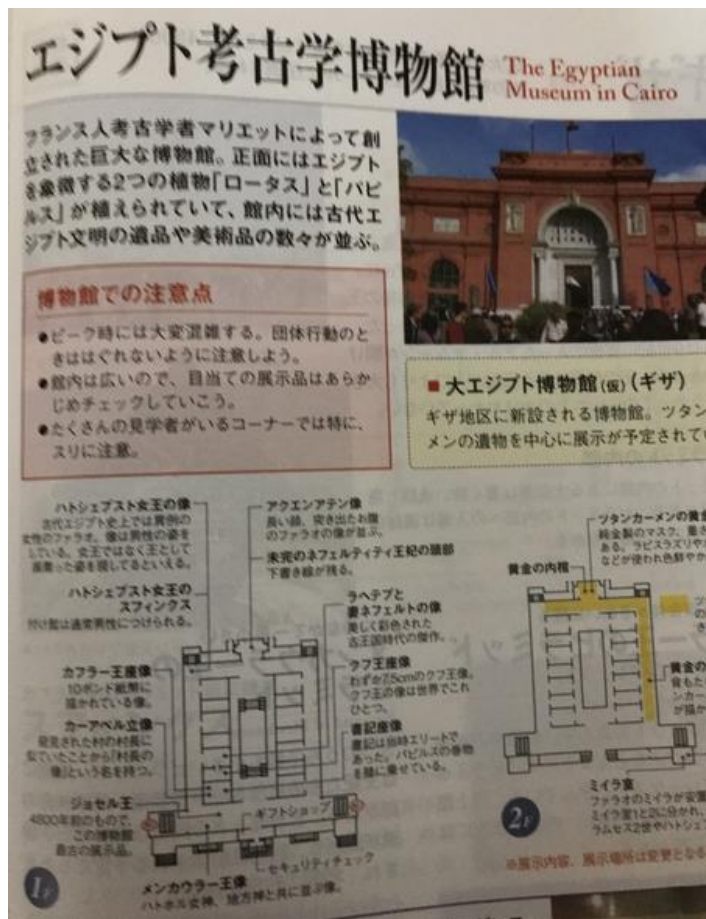
05:45 ドバイ着 到着後に乗り継ぎでエジプトのカイロへ

08:10 ドバイ発→10:25 エジプトのカイロ着 時差 マイナス7時間

到着後、専用バスでカイロ市内へ



世界遺産—カイロの「エジプト考古学博物館」・・現在、別の場所に新しい大きな博物館を建設中で、完成したらそちらに移設し展示する・



・・・世界遺産、カイロ市内観光、2時間—エジプト考古学博物館 見学・・・



有名なツタンカーメンの黄金のマスクや黄金ずくめでした。3000年の歴史を肌で感じました。  
観光後、カイロ→ギザへ専用バスで 17:00 ごろ ギザのホテル着、夕食

・・・ギザ宿泊・・・



## \*第3日目

07:30 専用バスでホテル出発

世界遺産・ギザの3大ピラミッド、そしてスフィンクス観光

・クフ王のピラミッド      ・スフィンクス      ・パノラマポイント      ・パピルスのお店

**ギザ Giza** 広大な砂漠に忽然と姿を現すピラミッド。4500年もの年月と壮大なスケールに圧倒される。 **世界遺産**

**ギザで最も大きなピラミッド**  
**クフ王のピラミッド**  
Great Pyramid of Khufu

3つのピラミッドの中で一番大きい。本来は高さが146mだったが、現在は頂上部がなくなり137mに。建設当時は白い化粧石で覆われていたが、その後の王が墓などの建設のため全部剥がされ今の姿になった。内部へは9世紀に盗掘に入ったアル・マムーンが開けた穴から入る。王の部屋にある石棺が入口よりも大きく、どうやって中にいれたのかはわかっていない。

■ピラミッドの内部  
ピラミッドの内部にある大回廊は暑く狭い通路と急な階段がある。ピラミッドの内部への入場は遺跡保護のため不可の場合もある。

ピラミッド複合体がきれいに残る  
**カフラー王のピラミッド**  
(ピラミッド・コンプレックス)  
Pyramid Complex of Khafre

3つ並ぶピラミッドの真ん中。参道や河岸神殿、スフィンクスなどをまとめて「ピラミッド・コンプレックス」と呼んでいる。頂上部分に石灰岩の化粧石が残り、内部の玄室には花崗岩製の石棺がある。

3つのなかで一番小さい  
**メンカウラー王のピラミッド**  
Pyramid of Menkaure

3つのうちで最も小さいピラミッド。南側には王妃たちのピラミッドや参道、河岸神殿の跡がある。ピラミッドの向こう側はリビア砂漠が広がる。当初は解体される予定だったとされ、北面にその跡が残る。



ピラミッドを目の当たりにすると、まあ、巨大である。3000年も前にこんななどでかい墓を作らせた王様の権威は絶大なものだったでしょう。



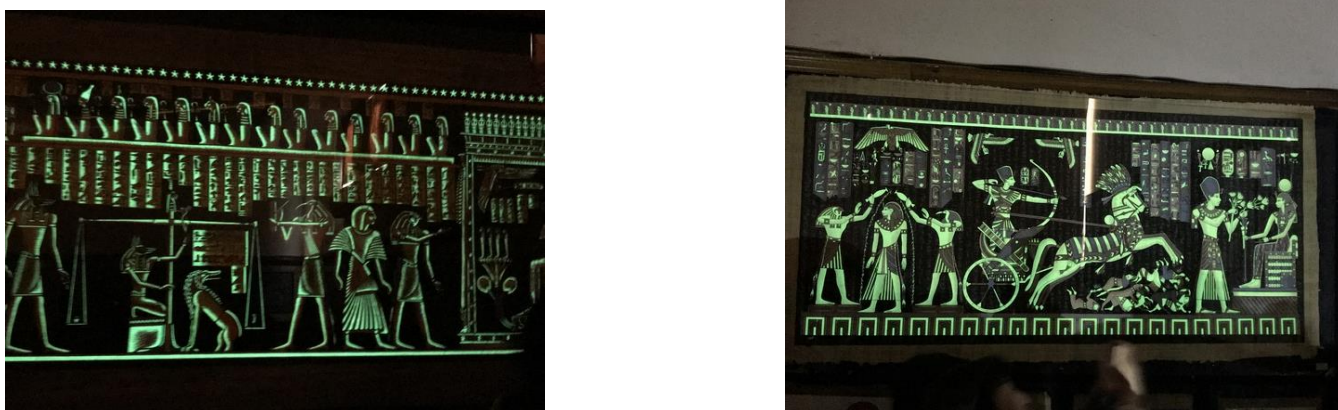
一番大きなクフ王の石棺があるかなり上のほうまで上がりました。1人がやっと上がり、1人がやっと降りる、すれ違いが危ないようにスロープでした。流石に石棺まで上がると汗びっしょりでした。多くのヨーロッパ人と日本人、中国人、の観光客で一杯でした。



ラクダに夫婦で乗りましたが、立ち上がる時と歩いて帰って座るとき(客を下ろす)はかなり怖かったです。鞍も片足しかないし、手でつかむ棒も1本あるだけです。まあ、記念写真が撮れたのでいいか。お金は1エジプトポンドが6円です。1人100エジプトポンドで600円です。2人で200エジプトポンド1200円です。トイレは1人5エジプトポンドです。2人で10エジプトポンドです。



スフィンクスは大きい、雄大でした。 昼食は石焼シーフードでした。まあ、美味しかったです。トイレは1人5エジプトポンド(30円)です





パピルスという植物から紙を作ります。ミツマタ、コウゾウという植物で作る和紙と同じようなものです。非常に強い引っ張っても破れない紙です。明かりを消すと、上に絵が浮き上がって光ります。とてもきれいでした。つられて絵を1枚5000円、しおり10枚1000円（計1000円札6枚出して買いました）

昼食後専用バスでギザから3時間かけて サッカラへ、 メンフィスへ、 ダハシュールへ向かいました。



サッカラのジェセル王の階段ピラミッド、ギザのピラミッドより100万年前に作られ、世界最古のピラミッドです。その後ギザなどのピラミッドの元になったものです。



何処の観光地や遺跡にも自動小銃を持った警察官が警備についている。風が吹くと寒いし、タバコを吸って、することもないので大あくびをしていた。エジプト絨毯を織っている。絨毯の学校があり、多くの子どもたちが習っていた。子供の手は小さいので細かい作業ができると言っていた。しかしかなり勉強しないと売り物にはならない。この人は先生でどんな絵柄も色彩豊かに織っていた。ある日の昼食です。あまり美味しくはなかったです。お金はアメリカドルが好まれ、日本円の1000円札も喜ばれる。エジプトポンドはトイレとホテルの枕銭ぐらいでした。ビールは4米ドル、高いところで7米ドルもありました。

・・・ギザ宿泊・・・

#### \*第4日目

05:00 専用バスでホテル出発、朝食はバスで軽食、

07:45 カイロ発→国内線のエジプト航空で 09:10 アスワン到着、専用バスでアスワンダムや湖を見学する。



アスワンダムは世界最大級の水力発電所でした。洪水を阻止して、電力をエジプト全土へ送る  
昼食は、ヌビア料理でした。地方料理ですが美味しかったです。→アブ・シンベルへバスで300キロ走りました。

世界遺産、アブ・シンベルの大神殿、小神殿を観光した。

→観光後クルーズ船に乗り、ナイル川クルーズを楽しみながら、いろんな町に寄港し、世界遺産の遺跡を見学して回る

アブ・シンベル大神殿、小神殿は見事なものです。アスワンダムの底になるのをユネスコの協力で移転しきれいに保存されています。





## アブ・シンベル Abu Simbel

世界遺産

ラムセス2世の巨大な岩窟神殿

### 大神殿

Great Temple of Abu Simbel

アスワンの南約280kmにある、新王国時代にラムセス2世によって建造された岩窟神殿。アスワン・ハイ・ダム建設で水没の危機にさらされたが、ユネスコの協力で移転、保存された。大神殿の正面にある高さ20mもの巨大なラムセス2世の座像の足元に入口があり、内部には8体のラムセス2世の立像のある列柱室がある。神殿は太陽が昇る東向きに造られているため、その奥の至聖室の神像は年に2回だけ、入口から光が差し込むという神秘的な設計になっている。

1年に2回だけの大チャンス！

■大神殿内の至聖所を朝日が照らし出す感動の光景

右から太陽神ラー・ホルアクティ、ラムセス2世、王の守護神アメン・ラー、宇宙の創造神のプタハの4体の像がある。プタハを除く3体を朝日が照らし出す瞬間は必見。この神が来世の神だからといわれている。

王の寵愛の証し

### 小神殿(ネフェルタリ神殿)

Small Temple of Abu Simbel

大神殿から北へ50m、ラムセス2世が



・・・船アスワンにて停泊・・・

ホテル ミラーージュ

### \*第5日目

07:00 クルーズ船でコムオンボへ向かう、下船して徒歩でコム・オンボ神殿を見学→船に戻り昼食

午後に船はエドフに寄港→馬車で ホルス神殿を見学する→その後再び船に戻り ルクソールに向かって出港

18:30 スエズ運河を通過するので鼻水が出る寒さの中デッキに上がりスエズ運河通過の様子をしっかりと見届ける。

19:00 船内で「ガラベイヤパーティー」を開催、エジプトの民族衣装で楽しいゲームを、妻が1位となり拍手。





夕焼けが綺麗だった。エジプトは国土の9割がサハラ砂漠で埃っぽい。  
でも空は青く、白い雲が美しい。雨はほとんど降らない。旅行中は傘はいらなかった。



馬車に2人ずつ乗って街中を走る。どんどん追い越してチップをねだる。一括払っているのでチップは渡さなくていいと言っていたが、お兄さんどんどん追い越しチップをねだるので、頑張り賞を10エジプトポンドやったら喜んでいった。ホルス神殿の観光を済ませて、帰りもその青年なので丁寧してくれ、また追い越して走った。



馬車でホルス神殿見学、クルーズ船の窓からナイル川、エジプト民族衣装でパーティーを楽しむ・・・





スエズ運河通過、寒い強風のなか一部始終見た。大事業がしのばれ見事なものだった。

エジプト国の収入はスエズ運河の通行料、観光収入が主なものだそうです。



クルーズ船内ホテルのメイドさんの粋なもの、室に入るとバスタオルでナイル川のワニを製作していた。

夕陽が神秘的、エジプトの子供達は一緒に写真撮ってくれと集まってきた。子供は何処の国も同じで可愛い。

・・・ルクソールにて停泊・・・  
船のホテル ミラージュ

**\*第6日目**

08:00 世界遺産、ルクソール西岸観光→王家の谷、 ツタンカーメン王の墓、ハトシェプスト女王葬祭殿  
 メムノンの巨像、 カルトゥーシュのお店（香水、カラス瓶、飾りガラス細工、）・・・昼食は船内で・・・



・・・・ ハトシェプスト女王葬祭殿でツアー仲間と・・・

午後は専用バスでルクソール東岸観光

ルクソール神殿、 カルナック神殿→その後、 船に戻り 19:00 ごろ船内で夕食



メムノンの巨像



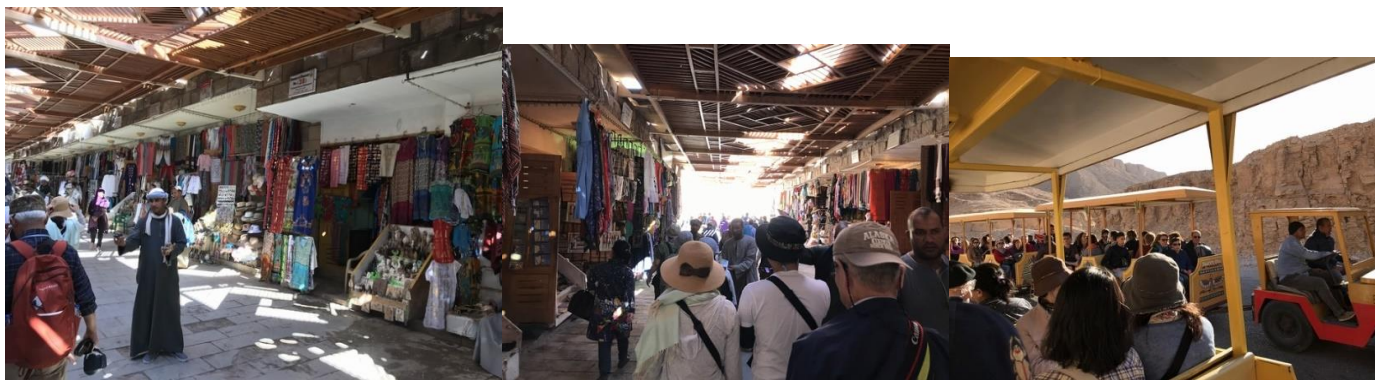
土産物の商店街、



エジプトの子供達

土産物店の客引きは強引、ワンだら、ワンだら(1米ドル)、(千円、千円、山本山、儲かりまっか、さくら♪) など変な日本語言いながら付きまとい追っ払うのに皆んな一苦労していた。





土産物店を通り抜けて、トロッコバスにみんな乗って王家の墓まで・・・



### カルナック神殿に付属する ルクソール神殿

Temple of Luxor

カルナック・アメン大神殿の付属神殿として建てられ、かつてはスフィンクスが両脇に並ぶ3kmもの参道で結ばれていた。神殿の主要部分はアメンヘテプ3世によるもので、その後ツタンカーメンやラムセス2世によって増築されていった。敷地内にはラムセス2世の中庭、アメンヘテプ3世の中庭、アレキサンダー大王の間などがあり、壁にはレリーフや象形文字などが刻まれていて見どころは多い。

▶第1塔門に聳え立つオベリスクはかつては左右2本であったが右側の1本は現在パリのコンコルド広場に建っている。



ハトシェプスト女王葬祭殿



ツタンカーメン王の石棺、ミイラもちかくで見ました。ナイル川の渡し船です。対岸に行きます。



## ルクソール東岸 East Bank of Luxor

ナイル川の東側、日の昇る東岸は「生者の町」と呼ばれ、街としての機能はこちら側に集まっていた。古代都市テーベが繁栄した紀元前にカルナック神殿ルクソール神殿などが建造される。現在は観光の中心は神殿めぐりで、駅や市場などの生活の場もあり賑やかな町となっている。

▶スケールが大きいカルナック神殿



### エジプト最大級の神殿 カルナック神殿

Temples of Karnak

カルナック神殿は大きくアメン大神殿、メンチュ神殿、ムート神殿に分けられるが、通常観光客が訪れるのはアメン大神殿。アメン信仰の発祥の地として中王国時代に建てられ、その後歴代のファラオが増築を行なった。アメン大神殿は約30haもある。第2塔門と第3塔門の間にある大列柱室には134本の柱が立ち並ぶ。部屋まわりの浮彫りのレリーフもすばらしい。



▲ラムセス2世とネフェルタリ (写真右)  
©GARDIEL, Bernard Pommerehne



### カルナック神殿 ~音と光のショー~

第1塔門から始まり、ガイドに従って移動しながら聖なる池まで進む。ドラマ仕立てで歴史をわかりやすく解説してくれる。幻想的なライトアップと満点の星空は感動的。

## ルクソール西岸 West Bank of Luxor

夕日の沈む西岸は「ネクロポリス(死者の町)・テーベ」と呼ばれ、中王国時代以降、墓所造りが盛んになっていった。ファラオたちは盗掘を防ぐために奥深い谷に安眠の地を築いたのだ。

### 撮影について

お墓の中でのカメラ・ビデオ撮影は不可。持ち込み禁止のところもある。



夜明けに泣いていた

### メムノンの巨像

The Colossi of Memnon

西岸遺跡の入口に立つ2体のアメンヘテブ像(高さ約21m)。かつてこのあたりには葬祭殿もあったが今は見る影もない。夜明けにキーンと音を発するといわれ、ギリシャ神話で母を慕って泣いたエチオピアの王の名にちなんで「メムノン」と名づけられた。修復により今は泣くことはない。



▲2体ともかなり傷みがはげしい。

### ツタンカーメンが眠る 王家の谷

Valley of the kings

第18王朝トトメス1世にはじまり新王国時代の歴代ファラオが埋葬されている。ファラオたちは、墓室の盗掘を避けるため深い谷を掘り下げて墓を建てた。ツタンカーメンをはじめ、ラムセス6世、セティ1世、トトメス3世のものなど、現在では約60基発見されている。



▲「ツタンカーメンの墓」玄室の棺にはツタンカーメンのミイラが安置されている。

### ■電気バスで移動

王家の谷やハトシェプスト女王葬祭殿では、入口まで遺跡の保護のために電気バス(トラム)での移動となる。



カイロ市内の土産物店、通りにはビル、マンションも建っている 道路は混雑  
道路には信号が殆んどない。警察官が交通整理している。大混雑である。三輪小型タクシーが割り込む  
物損事故は警察も来ないし、大声でケンカして終わり、人身事故は流石に警察官が来て処理していた。

・・・ルクソールにて停泊・・・  
船のホテル ミラージュ



## \*第7日目

05:00 下船して専用バスで空港に向かう。朝食はバスの中で軽食をとる。

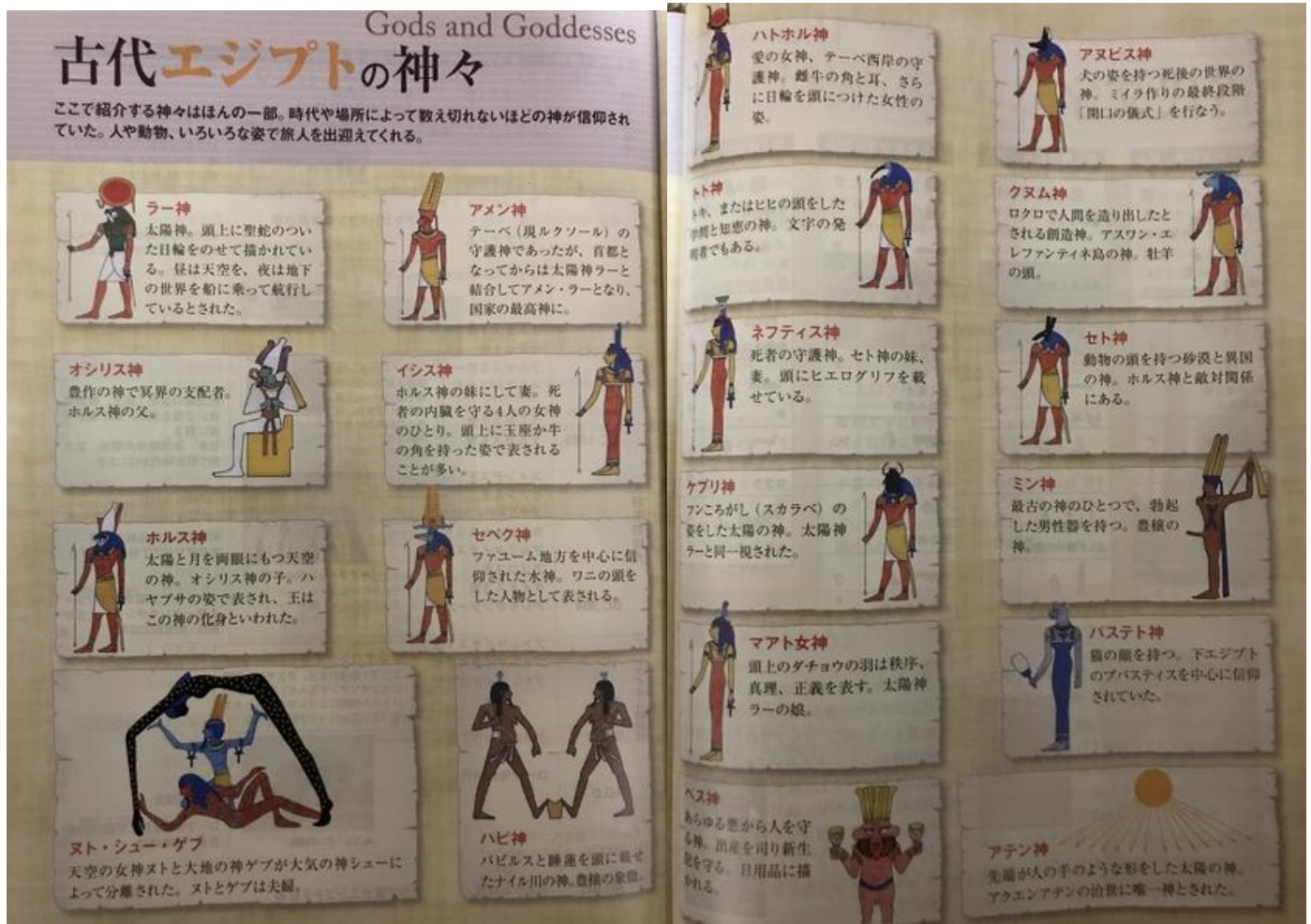
07:30 ルクソール発→国内線エジプト航空で→カイロへ 1時間10分

08:40 カイロ到着後専用バスでカイロ市内観光

モハメッドアリ モスク、 ハンハリーリバザール、 昼食は市内レストランで→その後カイロ空港へ・・・







・・・・・・・・・・古代エジプトの神様・・・・・・・・

エジプトの POLICE パトロールカー・・・・・・・・

今回乗ったアラブ首長国連邦、エミレーツ航空の美人客室乗務員、愛する恋人に電話かいな・・・・





## \*第8日目

00:50 ドバイ到着(アラブ首長国連邦) 着後乗り継ぎ、帰国の途へ

03:05 ドバイ発→→17:05 関西国際空港到着

18時の岡山行きリムジンバスで帰りました。

わが家には23時ごろ無事に帰ってきました。～ああ疲れました～

カイロ(エジプト)→ドバイ(アラブ首長国連邦)、エミレーツ航空3時間30分

ドバイ→関西国際空港、エミレーツ航空09時間00分

日本との時差はドバイがマイナス5時間、カイロがマイナス7時間、

エジプトの通貨はエジプトポンド、1エジプトポンドが6円、米ドル、日本円千円札、1万円札がOK、

今回の感動のエジプト ナイル川クルーズ8日間の旅行は、朝が早かったので老人にはややきつかったです。

日本に帰ってA型インフルエンザに夫婦そろってかかりました。旅行疲れと空港でどうもウイルスを土産にもらったようでした。年末はそんな状態でぐずぐずしていました。掃除やピラミッドとはいきませんが我が家の墓掃除や墓参りを済ませ、さあ正月を迎えよう。

正月に38.9度の高熱、こりゃあなんだ?A型インフルエンザは治ったはずなのにといい掛かりつけ医に行くと細菌感染症だと解熱剤と抗生物質をもらい毎日飲んで、やっと治りました。年齢のせいかな、旅行疲れか、そんなこんなで旅行記が遅くなりました。なんとか治ったのでアップします。一読一打ければ幸せです。

感動のエジプト・ナイル川クルーズ8日間の旅 2018.12.4.～11.

RSK OB 高谷 昇 NOBORU TAKAYA